

# 脳卒中予防へ薬局活用

## 心電図測定で受診勧奨

道医療連携NW協議会

が紹介された。

クリティカルパスを活用した地域医療連携体制の構築と人材育成を目指すNPO法人「北海道医療連携ネットワーク協議会」(理事長・宝金清博、北大総長)は総会を開き、2022年度活動計画を承認した。スマートヘルスケア協会と共同のモデル事業「薬局を活用した心房細動に起因する脳卒中等を予防するための地域生活者啓発プロジェクト」等を実施する。宝金理事長は今後の活動について「新たな人材に参加してもらい、さらに発展させたい」と説明。21年度活動報告では、病院と訪問看護ステーションの

ICT連携に関する実証実験結果が紹介された。

活動計画の説明で宝金理事長は「2年間、対面の講演会や説明会が開けずつらかったが、企業協賛のオンライン講演会を多数行うことができた。

その中で、オンライン診療や介護・訪問看護との連携に対し、当協議会のノウハウが役立てられることも分かってきた」と

説明。最近では医学部卒業後に医療系ICTで起業する人材も多く、「企業との連携を強め、新しい人に協議会に入ってもらい、学生ともコミュニケーションしたい。活動をさらに広く、高いレベル

にしていこう」と語った。承認された活動計画のうち、薬局を活用した脳卒中予防等の啓発プロジェクトは、提携しているスマートヘルス協会との共同事業。同協会は「健康応援スポット」として

認証した調剤薬局に、心房細動等の恐れを自動検出する心電計付き手腕式血圧計を設置し、来局した患者に自己測定してもらい、異常時はかかりつけ医等への受診を促す事業を全国展開している。

共同プロジェクトは同協議会に参加する病院・診療所と、同協会が認証した健康応援スポット薬局がタッグを組み、かか

りつけ医等の受診を経て来局した患者に心電図を測定してもらい、心房細動等のリスク保有者へのスムーズな受診勧奨と啓発活動を推進。取り組みを通じて受診勧奨プロトコル等を作成するとともに、効果を評価する。既に東区のみぎやまクリニックと門前薬局で実証実験を開始、1カ月で13人が測定を行っており、来年度の総会で結果を報告予定とした。

21年度活動報告では、同協議会が普及を自覚しているアプリ版「脳卒中・心筋梗塞あんしん連携ノート」を用いた医療連携に関する実証実験の結果

が紹介された。

豊平区の柏葉脳神経外科病院に通院し、同一法人の訪問看護ステーションを利用する脳卒中罹患後の患者3人を対象に、医師3人が初回・3カ月後・6カ月後の3回、①

退院サマリー共有機能②専門医の評価・経過観察③写真による書類共有機能④温度板について「今後も使いたい」「便利か」「使いやすいか」を評価。5段階評価の平均で、いずれの項目も3点以上を獲得し、多くの項目で使い慣れるほど評価が高くなった。手稲区の札幌秀友会病院でも同様実験が進行中という。

また、患者教育や生活支援の手引きとして需要が多い「あんしん生活ガイドブック」を2千冊増刷し、心不全に関するコンテンツを追加したことも報告された。